

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）  
分担研究報告書

高齢者のがん治療における倫理的課題の検討

研究分担者 田代 志門 国立研究開発法人国立がんセンター  
社会と健康研究センター生命倫理研究室 室長

**研究要旨** 本分担課題では、高齢がん患者に対する意思決定支援ツールの倫理的妥当性に直接関わる論点である clinical nudge（患者に一定の選択の余地を残しつつも、望ましい方向に誘導すること）の倫理的正当化に関する文献を網羅的に収集し、内容の分析を行った。その結果、clinical nudge の正当化は主に 患者の真の選好（authentic preference）の実現、又は 患者の最善の利益（best interest）のいずれかによって試みられていることが明らかになった。また、これらの論争の背景には clinical nudge の思想的な背景になっている libertarian paternalism の是非に関する議論が関係していることが示唆された。

#### A．研究目的

分担課題（高齢者のがん治療における倫理的課題の検討）では、高齢がん患者に対する意思決定支援に関する論点を抽出し、今後必要な対応を明確化することを目的とする。

#### B．研究方法

生命倫理・医療倫理に関する文献調査を行う。

（倫理面への配慮）

文献調査であり特段の配慮は必要ない。

#### C．研究結果

本年度は、班会議への参加等を通じて広く高齢がん患者の意思決定支援に関わっている医療者と問題意識を共有しつつ、本研究課題で取り組むべき論点の絞り込みを行った。当初は研究倫理・臨床倫理双方に渡る広範な問題が提示されたが、その後ディスカッションを重ねた結果、本課題全体で取り組んでいる意思決定支援ツール開発にとって急務である clinical nudge の倫理的正当化に関する論点をまずは集中的に検討することとした。

近年、医療分野に行動経済学的な手法を導入し、患者に一定の選択の余地を残しつつも、望ましい方向に誘導するような意思決定支援ツールの開発が注目されている。しかしその

一方で、こうした「誘導」は医療倫理の観点からは患者の自己決定権を損なうものではないか、という懸念も示されており、論争を引き起こしている。特に懸念されるのは、nudge の活用によって、医療者や行政機関の価値を反映したゴールへと患者が誘導されてしまうという点である。

そこで本研究課題では、clinical nudge の倫理的正当化に関する先行研究を網羅的に収集し、論点整理を行った。

#### D．考察

現在のところ、clinical nudge の正当化は主に 患者の真の選好（authentic preference）の実現、又は 患者の最善の利益（best interest）のいずれかによって試みられていることが明らかになった。また、これらの論争の背景には clinical nudge の思想的な背景になっている libertarian paternalism の是非に関する議論が関係していることも示唆された。

#### E．結論

今年度の成果を踏まえて、次年度は現在提案されている正当化のうちいずれが高齢がん患者の意思決定支援ツールの倫理的妥当性を検討するうえで有用かを検討する。

また併せて、clinical nudge の思想的な背

景になっている libertarian paternalism の是非に関する議論についても網羅的な文献収集と分析を試みる。

#### **F．健康危険情報**

特記すべきことなし。

#### **G．研究発表**

論文発表

なし。

学会発表

1. 田代志門．二つの医療、二つの倫理：研究と治療の区別これまでとこれから．第38回日本臨床薬理学会学術総会（パシフィコ横浜）, 2017年12月8日
2. 田代志門．本人の意思確認が困難なとき．第11回関西臨床倫理研究会（大阪府看護協会ナースングアート）2017年11月3日

#### **H．知的財産権の出願・登録状況**

1．特許取得

なし。

2．実用新案登録

なし。

3．その他

特記すべきことなし